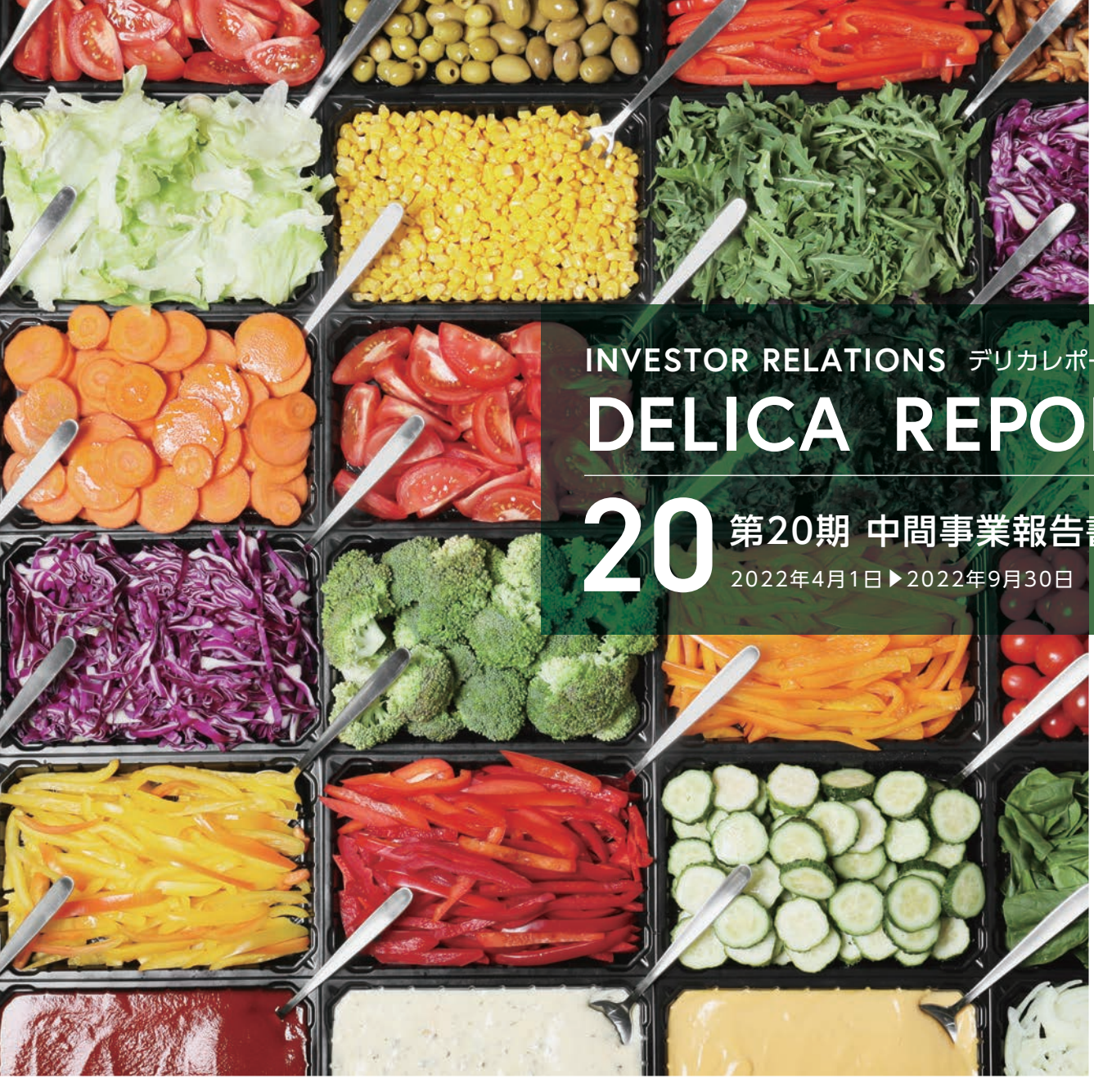


INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

20 第20期 中間事業報告書

2022年4月1日▶2022年9月30日

デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード　証券コード 3392

2022. November

TOP MESSAGE

代表取締役社長 大崎善保

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

当社グループの属する食品関連業界におきましては、主要顧客である外食産業において、7月以降に急拡大したオミクロン株の影響により客足の回復が伸び悩みました。加えて、人手不足による店舗運営の制約や、電気料金・燃料費・原材料価格の高騰、人件費の上昇等により引き続き予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、引き続き従業員や取引先様等の感染防止を最優先としながらも、仕入・在庫の厳格管理、廃棄ロスの削減、人員配置・物流の最適化などの効率運営を図りました。さらに、中期経営計画「Transformation 2024」の基本方針のひとつである「事業ポートフォリオの変革」を推進し、引き続き新規・深耕の営業活動で顧客の裾野拡大を図った結果、半期（6ヵ月）としましてはコロナ禍前の水準を上回る過去最高の売上高計上まで回復いたしました。なお、利益面につきましては電気料金・燃料費・原材料価格・人件費等の上昇によるコスト増の中で、お客様への丁寧な説明を実施した上で売価改善にも注力しており、徐々にその成果も出始めているところです。

中期経営計画のその他項目であります「青果物流通インフラの構築」「サスティナビリティ経営の推進」につきましても、新規拠点進出の具体化や次世代人材の育成を目的とした人的資本投資など、それぞれの施策を着実に進めております。また、ミールキットを手掛ける楽彩株式会社、デリカフーズ長崎株式会社を中心に、新分野であるBtoC事業の拡充も推し進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は半期（6ヵ月）として過去最高となる23,227百万円（前年同四半期比28.2%増）となりました。利益につきましては、諸経費増加などの影響もありましたが、営業利益は71百万円（前年同四半期は709百万円の営業損失）、経常利益は114百万円（前年同四半期は611百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は108百万円（前年同四半期は768百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）と前年対比で大きく回復させ、全項目とも黒字転換を果たしております。

今後もグループ一丸となり、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

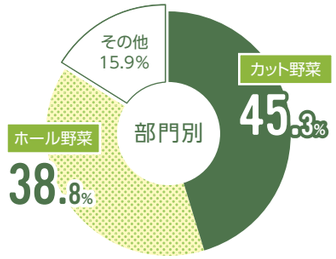
第2四半期連結累計期間としては、コロナ禍前の水準を上回り、過去最高の売上高を計上。

コロナ禍が続くなか感染防止を優先しつつも、効率経営を図るとともに、ミールキットなど新分野であるBtoC事業の拡大を推進するほか、引き続き新規・深耕の営業活動を中心に、事業ポートフォリオの変革を進めました。この結果、第2四半期連結累計期間としては、過去最高となる売上高を計上。また、利益の各指標とも前年対比で大きく回復し、黒字転換を果たしました。

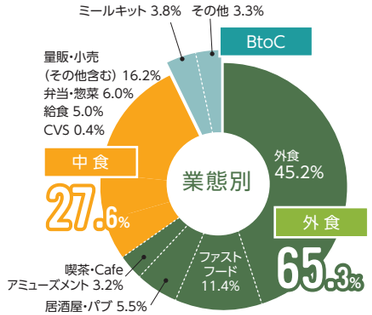
当第2四半期連結累計期間の業績

売上高	23,227百万円（前年同四半期比28.2%増）
営業利益	71百万円
経常利益	114百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	108百万円
1株当たり四半期純利益	7.32円

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、コロナ禍前は全体の8割以上が外食業界に向けた売上でしたが、ポートフォリオの変革によって現在は6割程となっております。

取締役のご紹介

取締役

こばやし けんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役

なかやま こんの
仲山 紺之

社外取締役

おざき ひろゆき
尾崎 弘之

社外取締役

しばた みすず
柴田 美鈴

取締役会長

たちもと いさたけ
舘本 勲武

BtoC事業の拡大にむけて

2020年9月、消費者向け事業への参入を掲げ、合弁会社として㈱青果日和研究所を設立。定期的に旬の野菜をお届けする青果ボックス販売事業を開始しました。翌2021年8月27日には、誰でも簡単に美味しい一皿が調理できる「ミールキット」の販売を目的として、新会社となる楽彩㈱を設立。ネットで注文して提携店舗で受け取れるピックアップショッピングサービスで、新たなライフスタイルを提案するBtoC事業を展開しています。

What? 美味しさと健康を考えた野菜レシピ「ミールキット」とは?

朝9：00までにネット注文して夕方17：00以降に提携店舗で受け取れる、便利で美味しい時短食材「ミールキット」の販売を開始して1年余りが経過しました。共働き夫婦や子育て中のお母さんなどを中心に、料理をしたいけど忙しくて時間が足りないお客様を支援する商品として評価され、多くのリピーターを獲得しています。スマホで簡単に注文できる公式アプリには、新メニューが続々登場。長く続くコロナ禍により、食へのこだわりやニーズがますます多様化するなか、デリカフーズグループが培ってきた技術・商品力で市場の拡大をめざします。

カット・真空加熱処理した状態でお届け

調理は
たったの3分！

お皿に盛りつけて完成

調理は最短3分。その他のミールキットも
10～20分程度で出来上がります！

新たなお客様との接点は、ますます拡大中!

利用駅内のコンビニだけでなく、お客様の生活圏にあるさまざまな場所でミールキットを受け取れるように。
2022年8月からは宅配も可能となり、日本全国のお客様に味わっていただけるようになりました。

デリバリーサービス

スーパー・百貨店

スーパーに卸して店頭で販売員として自ら販売するほか、百貨店のイベントに出店して認知拡大を図っている。

駅ナカコンビニ

主にJR東日本の鉄道駅に出店するコンビニエンスストア「NewDays」。首都圏を中心に100店舗以上で受け取り可能。

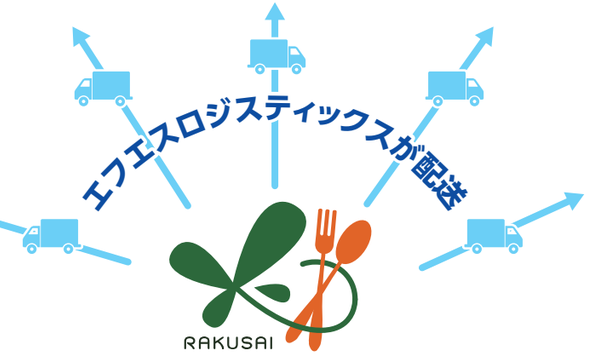
ベーカリーショップ

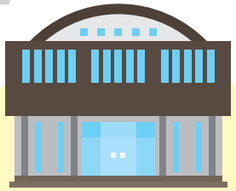
焼き立てのパンに、サラダなどもう一品を追加したいお客様が対象。野菜を添えて栄養が偏らない食事を支援する。

冷蔵ロッカー

キャンプ場

予約サイトから注文でき、当日キャンプ場で受け取って調理する。食材の廃棄も減り、フードロスにも貢献。





フィットネス

運動をした後の食事はとても重要。大手チェーンとの提携により、効果的に栄養を摂取できる食事を提案している。

青果日和が楽彩に仲間入り

青果ボックスの通販事業を手掛けてきた㈱青果日和研究所は事業強化のため、2022年3月に当社100％出資の子会社になりました。同年10月24日、同社と楽彩㈱は商品開発やPRなどの戦略が共通することから、シナジーの発揮を目的として合併。存続会社は楽彩㈱となり、BtoC事業の拡大をより一層推進していきます。

楽彩のミールキット 4つの強み

プロが認める美味しさをご家庭に

大手レストラン・居酒屋チェーン、お弁当・惣菜メーカーなど全国3万店舗を対象とするBtoBビジネスで得た信頼とノウハウは、まさしくプロも認める品質です。野菜と料理の専門家がメニューを開発し、ちょっと贅沢な一皿をご提供します。

注文後のカットで新鮮さを保つ

朝にシステム上で注文を受けてから、カット・加工・包装・出荷し、夕方にお客様が商品を受け取るまでの工程を、デリカフーズグループ社内でワンストップ対応しています。外注業者を使わず一社で完結するのは、他社にはないスキームです。

調理が簡単で時短にも最適

できるだけ調理に手間と時間をかけないよう、すべての野菜をカットした状態で出荷しています。ほとんどのレシピは包丁を使わず、10〜20分程度で完成するため、仕事や家事で忙しい方の時短に便利。子どもといっしょに料理をしても安心です。

真空加熱などのアレンジも多彩

ミールキットの加工をするのは、ISO基準に準拠した全国の工場だから品質管理も万全。フレッシュ野菜だけでなく、真空加熱野菜を使うこともできます。分析データに基づき、あらゆる野菜を最適な状態で食べられるメニュー開発に努めています。

楽彩創業から1年 お客様の声

本格的な味だった！特に野菜はシャキシャキで美味しかった〜。色々買うと重くなるからこんな風にしてくれると便利！

野菜がいっぱいで家族の健康のためにもいいね。たくさんは食べられないからこういう簡単なのは助かる！

勧めてもらって食べたら美味しくてびっくり。思ったより量がたくさん入っていてこれならいいよね。

これからパーティーでもう1品欲しかったからサラダがいいね。他社のものを使ったことがあるけど意外とめんどくさくて…カット野菜なら楽ね。

足立区のふるさと納税返礼品に採用

楽彩と青果日和の商品が、応募多数のなか、足立区のふるさと納税返礼品として採用されました。2022年10月1日より登録され、ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」内にも掲載されています。

左：楽彩のオリジナルミールキット（2人前・3種セット）
右：青果日和の青果まるごとスムージー（全5色・5p入り）

もっと便利に！

2023年春、プラットフォームが完成予定

これまで「楽彩」ではミールキットを、「青果日和」では青果ボックス・フルーツボックス・スムージーなどを各々販売してきました。楽彩と青果日和研究所の合併にともない、2023年初春を目標に、消費者向けのあらゆる商品を購入できるプラットフォーム「楽彩モール（仮称）」を開設することになりました。全国への宅配を主軸としながら、これまでと同様、主に首都圏ではお客様が指定する店舗・拠点で商品を受け取ることもできます。加えて、普段は青果ボックスを定期購入しているお客様に、追加でミールキットを注文してもらうなど、便利なサービスとして生まれ変わります。従来のBtoB事業とのシナジーにより、デリカフーズグループのブランド向上をめざします。

通販サイト・アプリで注文

楽彩で扱うあらゆる商品をワンストップで購入できます。

お届け方法も進化!

全国へ発送

お客様のご自宅または指定した住所に宅配します。

OR

店舗で受け取り

アプリから指定した店舗・拠点で商品を受け取ることができます。

DELICA NEWS&TOPICS デリカフーズグループの旬な情報をお届けします

EVENT 第74回 健康野菜塾

2022年7月7日、2年半ぶりに健康野菜塾を開催

2005年の第1回開催から毎回、多くのお客様にご来場いただいている健康野菜塾。2年半ぶり74回目の開催となった今回は、コロナ禍のなか感染対策を十分に行った上で、115名ものお客様に参加いただきました。「オンラインフードデリバリー市場とUber Eats」と題した特別講演ほか、当社グループからは、青果物流通の現状と展望・新事業・SDGsへの取り組みを紹介するなど、学びの場を提供する機会となりました。

NEWS デリカフーズ北海道㈱合併

事業の効率化を図るとともに北海道エリアの営業を強化

2019年にグループ会社となったデリカフーズ北海道㈱が、このたび2022年9月1日、デリカフーズ㈱北海道事業所として新たな門出を迎えました。今後の青果物流通事業のさらなる効率化と、北海道エリアでの営業基盤の強化を目指し、合併後も当社グループの一員として、より一層の業容拡大に努めてまいります。

NEWS とんでん㈱とコラボレーション

野菜の端材を活用した新商品「とんでんベジブロス」共同開発

日本では、事業系食品廃棄物が年間1,756万トン※に及ぶといわれます。当社グループでは、以前よりカット野菜加工時の野菜残渣の堆肥化に取り組んできました。そして今回、より一層のフードロス対策を行いたいという、当社と和食店舗を展開するとんでん㈱との想いが一致。これまで廃棄されてきた野菜端材を使用して“飲むひと口野菜だし「とんでんベジブロス」”を共同開発しました。野菜を無駄なく使用することで社会課題へ貢献いたします。

とんでんベジブロスに使用する大根の皮は主に、デリカフーズの契約産地のひとつ「柳田ファーム(千葉県)」の作物を使用。

※「事業系の食品廃棄物等と食品ロスの発生量」令和元年度推計 ―農林水産省より

決算レポート(第20期 中間事業報告 要旨)

四半期連結財務諸表と当四半期決算のポイントについてご説明します。

四半期連結貸借対照表(要旨)

単位：千円

科　目	第19期 前連結会計年度 (2022年3月31日)	第20期 当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
■資産の部		
流動資産 ❶	9,566,461	9,250,572
固定資産	13,379,376	13,483,942
資産合計	22,945,838	22,734,514
■負債の部		
流動負債	7,968,628	8,099,185
固定負債 ❷	8,740,338	8,332,643
負債合計	16,708,967	16,431,828
■純資産の部		
株主資本	6,118,837	6,158,151
その他の包括利益累計額	118,033	144,534
純資産合計	6,236,870	6,302,686
負債純資産合計	22,945,838	22,734,514

四半期連結損益計算書(要旨)

単位：千円

科　目	第19期 前第2四半期連結累計期間 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	第20期 当第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日
売上高	18,117,853	23,227,182
売上原価	14,831,528	17,754,899
売上総利益	3,286,325	5,472,282
販売費及び一般管理費	3,996,285	5,400,639
営業利益又は営業損失(Δ)	△709,960	71,642
営業外収益	118,464	66,538
営業外費用	19,602	23,788
経常利益又は経常損失(Δ)	△611,098	114,402
特別利益	53	6,808
特別損失	35,338	30
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(Δ)	△646,382	121,180
法人税等	121,617	13,048
親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純損失(Δ)	△768,000	108,131

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

科　目	第19期 前第2四半期連結累計期間 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	第20期 当第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	248,233	581,578
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363,173	△495,622
財務活動によるキャッシュ・フロー	△345,541	△613,566
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△460,481	△527,610
現金及び現金同等物の期首残高	4,314,192	4,209,401
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,853,711	3,681,790

	第19期 前第2四半期連結累計期間 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	第20期 当第2四半期連結累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益又は純損失(Δ)(円)	△52.02	7.32
1株当たり純資産(円)	426.46	426.64
自己資本(百万円)	6,295	6,302
自己資本比率(%)	28.8	27.7

決算数値 POINT

❶ **流動資産**

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.3%減少し、9,250百万円となりました。これは、主として売掛金が291百万円増加した一方、現金及び預金が572百万円減少したことなどによります。

❷ **固定負債**

固定負債は、前連結会計年度末に比べて4.7%減少し、8,332百万円となりました。これは、主として長期借入金が368百万円減少したことなどによります。

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは「業務用の八百屋」としてのノウハウを活かし、
安心・安全な野菜を日本全国にお届けします。

デリカフーズ

全国から調達した野菜を加工、鮮度を保って国内約30,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。

デザイナーフーズ

「選食力」=「栄養力」=「健康力」と位置づけ、ニーズに応じて科学的根拠のあるメニューの考案から、販売戦略セミナー・講演など、食をトータルでプロデュースします。

メディカル青果物研究所

長年の研究による野菜のデータをもとに、食品全般の受託分析を行い、食ビジネスにおける野菜の新しい魅力を発掘し、情報を発信しています。

エフエスロジスティックス

グループのコールドチェーンを実現するため、全国に広がるチルド配送網を活かし、毎日新鮮な野菜をお届けします。

楽彩

「楽して」「楽しく」「食卓を彩る」をコンセプトにミールキット販売事業を担います。朝に注文すると当日の夜に食べられる野菜たっぷりミールキットで、日々の食事を彩ります。

産地レポート vol.19

丸城出荷組合@茨城県

デリカフーズに野菜を納入していただいている、生産者のみなさんをご紹介するコーナーです。

当社との出会い

2008年、長野県を中心に農産物の流通を担う丸西産業㈱を通じて、野菜を出荷したのがきっかけ。安定的な発注で農業に計画性が生まれ、野菜づくりに専念できるようになりました。

IPMの実施やGAPの導入に力を注ぎ、美味しく安心・安全な野菜の安定供給をめざす

茨城県の南西部、関東平野のほぼ中央に位置する結城郡八千代町は、東部を流れる鬼怒川からのミネラルを多くふくむ土壌をもち、1年を通しておだやかな気候に恵まれた地域です。土地の特性を活かし、全国有数の生産量を誇る農作物の産地として知られています。組合ができる前から各生産者が後を継ぎ、30年以上前から野菜づくりに従事してきました。厳寒期の「春作」と夏季の「秋作」の二作を行い、レタス・サニーレタス・ロメインレタスほか葉ものを中心に、夏にはナスや長ネギなども栽培しています。

代々引き継いできた農業を永続的に発展させるため、2004年以降、有機質の投入や微生物農薬の使用をはじめとするIPM※1に取り組んできました。さらに2015年からは、本格的にGAP※2を導入。丸城出荷組合としては2018年にJGAP団体認証を、2021年には組合生産者5名でGLOBALG.A.P個別認証を取得しました。食の安全が期待される昨今、これまで以上に、消費者が安心して食べられる野菜づくりに努めていきます。

異常気象や悪天候のなか、休むことなく管理・収穫に取り組み、無事に出荷できたときは大きな喜びです。これからも“品質日本一”と言われる野菜を栽培していきます。

※1 IPM…Integrated Pest Managementの略。農作物に有害な病害虫や雑草を、利用できるあらゆる技術を適切に組み合わせ、環境への負荷を軽減しつつ防除する手法。

※2 GAP…Good Agricultural Practicesの略で、農業生産工程における持続的な改善活動のこと。農場ほか生産者団体が活用する管理基準であり、認証制度もある。

会社概要

2022年9月30日現在

商　号	デリカフーズホールディングス株式会社
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
設　立	平成15年4月1日
創　業	昭和54年10月6日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号
資本金	1,377,113千円
従業員数（連結）	681名（他、平均臨時雇用者数2,011名）

役　員

代表取締役社長	大﨑　善保	社外取締役	尾崎　弘之
取　締　役	小林　憲司	社外取締役	柴田　美鈴
取　締　役	仲山　紺之	常勤監査役	田井中　俊行
取締役会長	舘本　勲武	社外監査役	森田　雅也
		社外監査役	三島　宏太

会計監査人　　仰星監査法人

株式状況

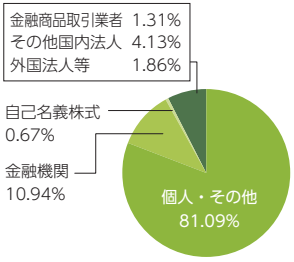
2022年9月30日現在

発行済株式総数	14,872,000 株
株主総数	11,809 名

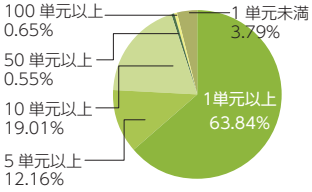
大株主

舘本　篤志	2,038,900 株
舘本　勲武	1,605,100 株
㈱日本カストディ銀行（信託口）	850,800 株
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	479,800 株
大﨑　善保	385,900 株
エア・ウォーター㈱	219,400 株
野村　五郎	189,800 株
丹羽　真清	185,500 株
デリカフーズグループ従業員持株会	174,500 株
㈱クローバフォー	158,500 株

[株主分布状況]



[所有株式数別分布状況]



株主メモ

事業年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
期末配当金受領株主確定日	3 月 31 日
中間配当金受領株主確定日	9 月 30 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所（証券コード 3392）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

【ご注意】

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号

IR最新情報はホームページをご覧ください。

デリカフーズ　https://www.delica.co.jp/

【お問い合わせ】TEL 03(3858)1037　FAX 03(5851)1056

本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。